

## 10章 助動詞構文1

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

ウーマンリブ運動のおかげで、女性の社会的地位はこれまでよりもずっと向上したが、まだまだやるべき多くの課題は残っている。そしてその課題は、ポケットということ抜きでは解決されないのだ。

男性のポケットに相当するものを女性は持っているのだろうか。ハンドバッグですか？

ちょっと考えてみただけでもわかるだろうが、いかに大型のハンドバッグであっても、たくさんポケットが付いた男性の背広には歯が立たない。ハンドバッグを持った女性が幸運にも昼食を共にしている上役から、重要な電話番号なり経済市場の秘密情報なりを得たとしても、彼女はすぐにメモできるだろうか。ペンを見つけることができるだろうか。おそらく見つけられるだろうが、でもペンはたぶん、3枚の古い買物リスト、2本のクシ、5本の口紅、携帯電話などの下に埋もれていることだろう。①しかも、ペンを見つけるために、それらすべてをランチテーブルの上におちまけなくてはならないのだ。

果たして、彼女はこの上役から、さらに新たな秘密情報をもらえるだろうか。たぶんだめだろう。②彼女がハンドバッグを開ける前までは、彼女がしていた現在の経済市場についての知的な議論に上役は感銘を受けていたかもしれないが、彼女が依然としてペンを探していたその4分後にはすっかり気持ちがそがれているのだ。

それではポケットを持たない女性はどうすればよいのか。

2つの解決策が明白のように思える。ひとつは女性達がデモのために結集してニューヨークのファッション街を行進することで、もう1つはこの国のすべての男性に次の誕生日プレゼントとして、例の女性ものと同じファッショナブルなハンドバックとこれもまた、例の女性ものと同じポケットのないスーツをおくることだ。

B.

#### 全訳

私が少年だった頃、日曜日の朝、私の家の近くの公園を奥さんと散歩する老人がいた。奥さんも年をとっていた。毎週日曜日に私がパン屋へ行く途中で彼らを見かけたものだった。2人はゆっくりと歩いていたが、おじいさんは奥さんを支えるために一方の腕をやさしく奥さんの腕にのせ、自分がよろけないようにするためにもう一方の腕を使って杖をついていた。私が覚えているところではおじいさんは少し腰が曲がっており、いつも帽子をかぶっていたが、私は彼の髪が雪のように真っ白いことを知っていた。

C.

#### 全訳

①私は、日本の職場の安定性と日本人の人間関係に対する配慮があれば、職場への女性の

進出により、日本は模範的な産業社会になれると固く信じている。⑤この国の人的資源が効率的に活用されるならば、国の成長が止まったり、経済界において日本がその地位を失ったりするはずはないだろう。1人の優秀な女性は何人もの無能な男性よりも価値がある。

## 【2】

### 解答

④, ⑥, ⑧, ⑩

### 全訳

演劇の中には大成功を収め、何年にもわたって上演されるものがある。かわいそうにも同じせりふを毎晩繰り返さなければならない役者にとっては、多くの点で、これは不幸なことである。自分のせりふを暗記しているのだから、決してとちることはないと思うだろう。しかし、これは必ずしもそうではない。

大成功を収めた演劇で、ある有名な俳優が、20年間バスターユ監獄に監禁されていた貴族の役を演じたことがあった。最後の幕で、看守が毎回、1通の手紙を持って舞台に現れ、その手紙を囚人（貴族）に手渡した。貴族は毎回、手紙を読むことになっていたが、彼はいつも、文面は一字一句書いておいてほしいと言った。

ある晩、看守役は自分の共演者をからかおうと思った。何回も上演しているので、共演者が手紙の内容を暗記できているかどうか、試そうとしたのである。最終幕の緞帳が上がり、暗い独房で鉄格子の後ろにひとりで座っている貴族が姿を現した。と同時に、看守が大切な手紙を手に持って現れた。彼は独房に入り、その手紙を貴族に渡した。しかし、彼が貴族に渡した手紙は、いつものように一字一句書かれてはいなかった。それは、まったくの白紙だった。看守役は、共演者が自分のせりふを覚えているかどうか知りたくて、じっと見つめていた。貴族は、数秒の間、その何も書かれていない紙を眺めた。それから、目を細めて言った。「照明が暗いですね。私に手紙を読んでください」そして、彼はすぐに看守にその紙を渡した。自分も手紙のひとつと言も思い出せないとわかると、看守は答えた。「本当に照明が暗いですね。めがねを持ってこなければ」こう言って、看守は慌てて舞台から出ていった。貴族がとてもおもしろがったことには、看守はすぐにめがねといつもの手紙を持って戻ってきて、そのまま囚人に読み聞かせたのである。

### 注

- ℓ. 1 ◇ on end = continuously 「連続して」  
◇ in many ways : この ways は points と言い換えても同じ。  
cf. in some ways; in every way
- ℓ. 2 ◇ the poor actors この場合、poor は「下手な」の意味ではなく、書き手の心的態度を表している。訳すときには副詞的に訳すのがよい。  
◇ go on ...ing = continue to ...  
◇ night after night = every night  
cf. day after day; year after year
- ℓ. 3 ◇ One would expect them to know ...  
○ One は「(自分を含めて) 誰でも」という感じで、「人一般」を表す。ただし、これ

は形式ばった言い方で、どちらからかという You を用いることが多い。

◇ know ~ by heart 「暗記している」

◇ part 「役；せりふ」

◇ cause = reason

ℓ. 4 ◇ stammer = speak with difficulty, hesitating and repeating words or sounds 「口ごもる」

◇ ~ is the case. = ~ is true or correct.

◇ not always 「必ずしも～ではない」《部分否定》

ℓ. 5 ◇ aristocrat 「貴族」

◇ who had been imprisoned

○ had been と過去完了形になっていることに注意。“once played the role” よりも以前の話だからである。

○ imprison = put in prison

ℓ. 6 ◇ the Bastille 「バスチユ監獄」

○ 百年戦争でバリ防衛のために作られた城塞。17 世紀以来、政治犯の牢獄として使われたことから、フランス革命の際、民衆が破壊した。

◇ act 「(演劇；戯曲などの) 幕」

◇ a jailer would always … 「看守はいつも…したのであった」

○ would はその動作が過去において繰り返されたことを表す。本文のように always や often などの頻度を表す副詞を伴うことも多い。同じように過去の習慣を表す used to … と合わせて覚えておきたい。

Ex. We used to walk along this river on Sundays.

(日曜日にはよくこの川べりを歩いたものだ。)

○ jailer = a person who is in charge of a prison or prisoners 「看守」

ℓ. 7 ◇ hand = pass

◇ the prisoner 「囚人」ここでは imprison された aristocrat のことである。

◇ the noble = the aristocrat

ℓ. 8 ◇ performance 「上演」

◇ insist that … = say very firmly that …：この that 節は仮定法現在の 1 つで、アメリカ英語では普通 should が省略される。insist のほか、提案・勧告・要求などを表す、advise / ask / demand / propose / request / suggest などの後に来る that 節はこの形を取る。

Ex. They demanded that the meeting (should) be put off until Friday.

(彼らは会議を金曜日まで延ばすように要求した。)

ℓ. 9 ◇ in full = completely

ℓ. 10 ◇ play a joke on = do something to make other people laugh at 「～をからかう」

◇ colleague = the person you work with：この場合は「共演者」

◇ find out if … 「…かどうかを知る」

○ if 以下は名詞節で、find out の目的語になっている。

- ℓ. 11 ◇ manage to … = succeed in …ing  
 ◇ learn ~ by heart 「暗記する」  
 cf. know ~ by heart (ℓ. 3)
- ℓ. 12 ◇ reveal = show; uncover  
 ○この動詞の主語は The curtain である。
- ℓ. 13 ◇ with ~ in his hands 「手に～を持って」
- ℓ. 14 ◇ present = give  
 ◇ the copy : これは the letter を言い換えたもの。
- ℓ. 16 ◇ look on = watch  
 ◇ anxious to see if … 「…かどうか知りたくて」  
 ○この部分は、being anxious to see if …という分詞構文の being が省略されたもの  
 と考えることができる。  
 ○ anxious to ~ = want to ~ very much  
 ○ if 以下は名詞節で see の目的語である。
- ℓ. 17 ◇ narrow one's eyes 「目を細める」  
 ○これは欧米では、何かに集中して考え事をしている態度を表すか、相手に対して不  
 快感や軽蔑、敵意を持っていることを表す表現である。
- ℓ. 19 ◇ Finding that … 「…であることがわかると」  
 ○分詞構文。When he found that …と書き換えることができる。  
 ◇ he could not remember … either 「彼もまた…を思い出せない」  
 ○ not … either の呼応に注意。肯定文であれば、either は too になる。
- ℓ. 20 ◇ indeed 「(相手の言ったことを受けて) 本当に」  
 ◇ sir : 男性に対する改まった呼びかけの言葉。女性に対しては madam または  
 ma'am である。  
 ◇ With this : この with は付帯状況を表す。
- ℓ. 22 ◇ which … 直前の the letter を受ける関係代名詞。したがって、which 以下は意味上、  
 次のように書き換えることができる。… and he proceeded to read it (= the  
 letter) to the prisoner.  
 ◇ proceed to … 「(続いて) …し始める」

【3】



整理しよう

前置詞のマスター8 “for”

解答・解説

- (1) My sister looks young for her age.
  - 「～の割には」
- (2) I'll pay for dinner.
  - 「～の代わりに」 ‘交換の for’ として有名。
- (3) Can I change this for a smaller size?
  - 「～と引き換えに」 これも ‘交換の for’。
- (4) Are you for or against another rise in the consumption tax?
  - 「～に賛成して」 *cf.* against A 「A に反対して」
- (5) This laptop PC is good value for the price.
  - 「値段の割には良い価値」と考える。
- (6) Reading gave me something to live for.
  - live for something → something to live for となる。
  - 「生きる糧となる理由」 → 「生きがい」
- (7) An airplane bound for London will take off soon.
  - 「～に向かって」 be bound for A 「A 行きである」
- (8) I for one think that the Internet has brought about positive changes in the world.
  - I for one think ～ 「私としては～と考える」
  - bring about A 「A をもたらす」

前置詞のマスター9 “off”

解答・解説

- (1) Keep off the grass.
  - 決まり文句として覚える。
- (2) It is said that Newton saw an apple fall off a tree and then discovered the law of gravitation.
  - 「木から落ちる」 fall off a tree
  - 「引力」 gravitation, 「重力」 gravity
- (3) Please let me get off at the intersection over there.
  - let me get off at ～ も定型表現。
- (4) Now you'll save forty percent off the usual price.
  - **別解** Buy now to get a discount of forty percent off the regular price.
    - save 「～を省く」
    - 「通常価格」は usual price が直訳だが, regular price の方が使用頻度が高い。

- (5) My parents now live off their pension.  
 ○ live off ~ 「～を犠牲にして生きる；頼って生きる」  
 ○ live on their pension でも同じ意味になる。
- (6) Last summer I took a month off work.  
 ○ 「仕事から1ヶ月（の休暇）を取った」というのが直訳。

#### 【4】

##### ポイント

基本助動詞の用法を概括する。もし知識として確立していないものがあつたら、必ず確認しておくこと。

##### 解答・解説

- (1) Can  
 ○ 「本当にありうるのか。」と考える。
- (2) should, can't  
 ○ should には「～すべき；～はず」の他にもさまざまな意味があるので注意。【5】を参照のこと。
- (3) will  
 ○ 助動詞 will には‘現在の固執・意志（～しようとする）’という意味がある。
- (4) shall  
 ○ shall は1人称の意思を表す。憲法とは国民が国家権力に対してその限界を定めた条項であつて、主権者たる国民の意思が shall で表されている。つまり、「国民をすべて（国家権力に対して）尊重させるべし」という意味合いになる（‘立法’の shall とも言う）。
- (5) ought  
 ○ ought は単独では用いない。必ず to とともに ought to として使われる（否定は ought not to）。
- (6) must  
 ○ 直訳は「私に関して何かがおかしかったに違いない。」となる。‘助動詞＋完了形’の形は重要。詳しくは【6】を参照のこと。
- (7) used  
 ○ used to do 「かつては…だった」  
 ○ used to do は‘過去の状態・動作’を表す。また、現在との対比として使われることもある。would often（‘過去の動作’を表す）との違いは押さえておくべき。
- (8) may  
 ○ may ~ but …（～かもしれないが、…）という譲歩形式の一つ。
- (9) dare  
 ○ dare は本動詞としての用法のほか、否定文や疑問文では助動詞として用いられることがある。

(10) need

- need は本動詞としての用法のほか、否定文や疑問文では助動詞として用いられることがある。

Ex. He didn't need to do it. (動詞), He need not do it. (助動詞)

## 【5】

### ポイント

should にはさまざまな用法がある。ここで一気にまとめて覚えてしまおう。

### 解答・解説

- (1) c 「ジャスミンが生物学についてそんなに知っているなんて驚きだ。」
- ‘主観’の should とか‘感情’の should と呼ばれるもの。should を省くと直説法になる。例えば, It is surprising that Jasmine knows so much about biology. とすると感情が薄れ, 客観的記述になる。
- (2) d 「彼が東京を直ちに発つことが必要です。」
- ‘必要性・重要性’の形容詞の後には仮定法現在が来るが, 主にイギリス英語では should を置く。この should は間接的に‘話し手の要求’や‘願望’などの気持ちを表す。
- (3) e 「できましたら今晚お伺いしたいのですが。」
- 主にイギリス英語では, 1人称が主語の時に would を用いずに should を用いて‘控えめな意志’を表す場合がある。
- (4) b 「ルーシーはもうそろそろここに来るはずだが。」
- should が‘当然の推量’を表して「～のはずだ」の意味になる場合がある。
  - by now 「今頃は; そろそろ」
- (5) f 「万一あなたがそれを必要だと思う場合, 私にメールをください。」
- 仮定法の条件節で should が用いられると, 話し手が可能性が低いと思っている条件を表し「万一～ならば」という意味となる。この場合, 帰結節には直説法や(本問のように)命令法も来ることに注意しておく。
- (6) a 「あなたは1日1時間の筋トレを行うべきです。」
- should が「～すべき」という‘義務・必要’を表す場合である。ought to より意味は弱い。

## 【6】

### ポイント

‘助動詞+完了形’は, 一般に過去の出来事に対する推量を表す。

- must have done 「…したに違いない」
- may have done 「…したかもしれない」
- cannot have done 「…したはずがない」
- should have done 「…すべきだったのに。」
- ought to have done 「…するはずだったのに。」
- need not have done 「…する必要はなかったのに」

※ ここで have + done は‘完了’というより，時制が現時点より過去であることを示し，助動詞を用いた現在の判断から考えて「かつて～だったのに」という意味を示す。

**解答・解説**

(1) is certain

「彼は今朝列車に乗り遅れたに違いない。」

○ was ではなく is であることが重要。あくまで must は現在の判断を表す。

(2) cannot have made

「トムがそのプロジェクトで重大なミスをしたはずがない。」

○ ミスをしたという過去のことを現在 cannot と判断している。

(3) ought, have checked

「ルークがチェックもせず答案用紙を送ってしまったのは残念だ。」

(4) needn't have brought

「あなたは傘を持ってくる必要はなかったのに（持ってきた）。」

**今日の一言**

When the cat is away, the mice will play. 「鬼の居ぬ間に洗濯。」

When the cat is away のように，一般的に言えば，従位接続詞は副詞節を作る。「猫が居ない時，ネズミは遊ぶ。」が直訳だが，日本語では「鬼の居ぬ間に～」となる。先生がいらないからといって遊んでしまうのはいかなものだろう。そんな時にもしっかりと自習することで，合格が近づくと考えよう。

## 添削課題

### 全訳

(1) 若い頃は、映画に行かなければ外で遊んでいたであろう土曜の午後に、映画を見に行くことほど好きなことはなかった。私が一緒に遊んでいた子たちはみんな映画が好きだった。我々は出来の悪い作品でさえも見に行った。その当時、私は批判的な意見を持ったことなど決して思い出すことはない。それは単に「映画」にすぎなかったのだ。

今の映画は、私が思春期の頃のものよりよい。(2) 私は当時と同じくらい今の映画が好きであればいいのと思う。(3) 欠点は映画よりもむしろ私の方にある。映画は最善を尽くしている。しかし、私は今の映画は重々しく一流の雰囲気を感じていると思う。(4) 最悪の作品でさえ、アマチュアの映画製作者が作ったようには見えない。

### 解説

- (1) ◇ there was nothing I liked better than ~ 「～より好きなものは何もなかった → ～が一番好きだった」《実質上の最上級の意味を表す比較級》
- ◇ a Saturday afternoon when I should have been outdoors playing 「(もし映画に行かなければ) 外で遊んでいたであろう土曜の午後」
- when 以下は仮定法過去完了。‘if I hadn’t gone to the movies’ という条件文が潜在している。
  - outdoors 「外で [へ]」 *adv.* cf. outdoor 「外の」 *adj.*
  - playing は補語に相当する分詞で様態を説明する用法。
- (2) ◇ I wish I liked them as much as I did then 「私はその頃と同じくらい映画が好きならいいのと思う」
- 現在の事実と反する願望を表す仮定法過去の文。
  - them = movies
  - I did then = I *liked movies* then
  - did は語句の繰り返しを避けるための代動詞
- (3) ◇ The shortcoming is more mine than theirs 「欠点は映画のものというよりはむしろ私のものである → 欠点は映画よりもむしろ私の方にある」
- この more は rather の意味を表す。
  - more A than B 「BというよりもむしろA」
- (4) ◇ The worst ones don’t look as though they had been done by amateur film makers 「最も出来の悪い映画でさえ、アマチュアの映画製作者が作ったようには見えない」
- この最上級には even (～でさえ) の意味が含まれていることに注意。
  - ones は movies を指す。
  - as though 「まるで…であったかのように」《仮定法過去完了》





E2JS/E2J  
高2 選抜東大英語  
高2 東大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製